

みんなでチャレンジ！ 今すぐできる 社会貢献 今すぐ誰にでも始められる“社会貢献”に注目！

vol.21 フードドライブに参加しよう！

最近、地域での「子どもの貧困」や「生活困窮」のような具体的な課題への対応として、フードドライブが注目されています。

フードドライブとは、家庭等から食品を収集し（または持ち寄り）、フードバンク※活動団体に渡す活動をいいます。現在はフードバンク活動団体の他に、社会福祉協議会や公共施設、企業、学校、スーパーなどでもフードドライブの取り組みが進んでいます。

なお、食品を送る際の注意点として、賞味期限が1ヵ月以上あるか、未開封のものか（中身が出

ていないか）という点があります。その他、余っている食品ならなんでもいいというわけではないため、参加する前に条件などを確認し、気持ちよくお裾分けができるようにしましょう。（中村）



※フードバンクとは、賞味期限内にもかかわらず、消費する予定がなく眠っている食品や包装や印刷ミスなどにより流通に乗らない食品を家庭や企業等から寄付してもらい、必要としている人や社会福祉施設、学童保育所、子ども食堂などに無償で提供する活動です。

NPO工具箱 NPOを応援する仕組みや情報をご紹介します

vol.23 Google docs

これはエクセル・ワード・パワーポイントなどをオンラインで共有し、共同作業をスムーズに進めることができるものです。その特徴は、同じドキュメントを開きながら、同時に作業ができることです。

通常のエクセル等だと同時に開くと「閲覧モード」になってしまいますよね。また、携帯電話やタブレット、パソコン等場所を問わずどこからでもドキュメントにアクセスし、作成したり編集することができます。通常のエクセル等だと作成したパソコンでしか開くことができませ

ん。そしてGoogleアカウント（Googleが提供するサービスを利用するためのネット上の会員証のようなもの）があれば、基本的に無料で使用できます。

これを使うと、インターネット回線を使った会議等で同じドキュメントを見ながら作業できるので、とても効率的です。字体を選んだり、リンクや画像、図形描画を追加したりするなど、すべて無料でつかうことができますし、オフライン中でも作業の継続が可能です。グループや団体で共有するにはとても便利です。（有川）

センター職員のいちおし！ スタッフが気になることやおすすめしたいことなどをご紹介します

vol.25 山形市内の旧町名表示柱

山形は最上家の城下町として、今も市街地の道筋や史跡などに、往時の名残を残していますが、市内47か所にある旧町名表示柱をみなさんはご存知ですか？

1998年、市制100周年を記念して設置された立派な石柱で、その名の通り城下町として栄えていた時代の旧町名がしっかりと彫り込まれています。その中には「二日町」「元三日町」「四日町」と言った市の立つ日を表す町名から「鍛冶町」や「蜷燭町」、「鞆町」「材木町」と言った商いの種類を表

す町名など、昔の城下町を思い起こさせてくれる名称が沢山あります。

実は、こうした旧町名表示案内のディスプレイが霞城セントラルビル23階の旧まちづくり情報センター（平成29年3月まで山形市市民活動支援センター）に設置されていたのですが、今は学習スペースになって見学するのが難しい状況になっています。せっかく市内各所に設置されているこうしたモニュメント。散歩がてらに巡るのも一興です。（齋藤）

編集後記 今号の特集、実はもう一つ別の原稿があります。ちょっとした内部コンペによる接戦の結果、獲得票が多かった方を採用、掲載しました。それにしても、20年前の私はまだ中学生。NPOって知らなかったなあ。（花屋）

山形市市民活動支援センター利用のご案内

- ・開館時間 / 9時半～22時
・休館日 / 月曜日、祝日、月曜日が祝日のときは火曜日、年末年始
★印刷と相談の方は1団体2名、2時間までの駐車券補助があります。
（霞城セントラルパーキング・山形駅東口交通センター駐車場をご利用ください）

山形市市民活動支援センターだより とぴあす
発行責任者：所長 齋藤 和人

山形市の市民活動の情報と支援センターからのお知らせをお届けする情報紙

とぴあす

2018年11月15日発行

市民が活動しやすい社会に
～NPO法制定成立からの20年～



平成30年11月1日、仙台市河北新報社本館ホールで開催されたNPO法20周年記念フォーラムの様子です。東北各県のNPO中間支援組織による実行委員会が主催し、「NPO法が東北にもたらした市民社会、これまでの20年とこれからの20年」というテーマで、NPO法の意義やこれまでの20年、これから未来に向けたNPOについて考えました。

会場にはおよそ100名が集まり、NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会理事の松原明さんの講演をはじめ、東北各地で活動しているNPOの皆さんによる活動報告や議論が展開されました。

今号の目次

- ・市民が活動しやすい社会に～NPO法制定成立からの20年～
・みんなでチャレンジ！今すぐできる社会貢献 vol.21
・NPO工具箱 vol.23
・山形市の市民活動のご紹介
・センター職員のいちおし！ vol.25



vol.42

山形市市民活動支援センター

〒990-8580
山形市城南町1丁目1-1霞城セントラル22・23階

電話：023-647-2260 F A X：023-647-2261
メール：center@yamagata-npo.jp

市民が活動しやすい社会に ～NPO法制定成立からの20年～

今年はNPO法が施行されてから20年という節目の年です。そこで今号では、このNPO法が、私たちの暮らしとどの様につながっているのかを考えます。



市民活動とNPO法

身近で気づいた生活の困りごとや、社会的な問題への関心ごとを、自分たちでなんとかしようと考え、実際に活動することを、私たちは「市民活動」と呼んでいます。市民一人ひとりによるこの社会活動は、1970年代から見られる様になり、そして1995年に発生した阪神・淡路大震災の被災地では、多くのボランティアや市民活動団体（NPO）が行政の支援活動を上回る取り組みを展開しました。しかし、市民活動が展開される一方で、これらの活動には大きなハードルがありました。それは、団体として事務所を借りることができない、銀行口座が開けないなど、法的に様々な契約を結ぶことができないことでした。

この課題を無くして、小さなボランティア団体でも法人格が取れるようにと、1998年12月に施行されたのが「特定非営利活動促進法（NPO法）」です。この法律には、市民の自主的・自発的な活動を応援して行こう、という思いが込められています。



NPO法の制定成立に深く携わった「NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会」理事・松原明氏（表紙で紹介のイベントにて）▲

山形市民とNPO法

山形市内でも、NPO法人格を取得したことで、より広く活動を展開できるようになったボランティア団体。日常生活に困難を抱える人とその家族を支えるために、様々な制度を活用しながら当事者に寄り添った活動を始めた人たち、身近で感じている困りごとの解決のために、既存の業態では実現できなかった様な仕組みを作り上げて活動を始めた人たちなど、この20年の間に、100を超えるNPO法人が生まれました。そしてこの法律が整備されたことで、法人格を持たない市民活動団体の社会的な認知も進みました。現在、当センターには300を超える市民活動団体が登録していますが、その大半が法人格を持たないNPOのみなさんです。



山形市のNPO法人認証数	山形県のNPO法人認証数	全国のNPO法人認証数
109 (H30年9月末現在)	441 (H30年8月末現在)	51,770 (H30年8月末現在)

こうした中で、NPOへの寄附が進むとともに、市民活動を支援するためのファンドの整備も進みました。私たちに身近なものでは、山形市が、市民や企業からの寄附を地域貢献に結びつける仕組みとして「山形市コミュニティファンド」を10年前から開設し、これまでにおよそ1億7千万円が、NPOの活動を通して様々な取り組みに還元されています。



今年8月に開催された、山形市コミュニティファンドの一つ「公開プレゼンテーション補助」の様子です。NPOを対象とした補助金や助成金が数多くある中で、この補助制度は、投票・開票・補助先の決定は全てプレゼンテーション当日に行われること。そして、約100名にも及ぶ一般市民が審査員となり、山形市のまちづくりに寄与する事業を選ぶという点で、特徴的な仕組みであると言えます。



市民生活を取り巻く環境が絶えず変化して行く中、同じ課題に共感した市民による自主的・自立的なNPOの活動が活発に行われることは、私たちにとって暮らしやすいまちづくりに、更には「誰一人取り残さない」社会につながるものと言えるでしょう。

山形市の市民活動のご紹介

竜山川「花見ライン」創生プロジェクト

秋の植栽日の様子

平成30年10月14日（日）

10月13日（土）、14日（日）、山形市滝山地区を流れる竜山川河川敷土手で、シバザクラの秋の植栽が行われ、親子連れの皆さんやシニア世代など様々な年代の方が参加し、互いに協力しながら活動しました。

主催した竜山川「花見ライン」創生プロジェクトは、滝山地区小立二丁目や三丁目、平清水などの町内会長を務めた皆さんと東北芸術工科大学の学生、地域住民の有志の皆さんが結成した市民活動団体です。滝山地区の名所である西藏王の大山桜、岩波の山吹街道に繋がる一大花見ラインを創生し、滝山地区を笑顔と感動の音が溢れる地域にしようと2016年に活動が始まりました。

今年は、山形市コミュニティファンド公開プレゼンテーション補助事業に採択され、“オール世代”=お年寄りから子どもたちまですべての世代が交流する「ミニパーク」づくりを目指す事業を行っています。

この日シバザクラで描いたのは、山形市お宝広報大使「はながたべこちゃん」。花文字やイラストのデザインは、活動開始当初から参加している東北芸術工科大学の学生が担当し、対比させる花の色の選定や株を植える間隔、雑草を刈るタイミングなど、はっきりと形が浮かび上がるような工夫をしているそうです。子どもたちも手植えや水かけなどの仕事で大活躍。参加者の皆さんにも笑顔が溢れました。

代表の柴田涼男さんは、今回の活動について「小さい子どもたちからその親世代、学生、シニア世代が参加し、今年を目指していた『地域のオール世代』で活動ができました。滝山地区は、人口25,000人のマンモス地区であり、その分課題も大きいと感じます。花を觀賞した人にも活動に参加してくれた人にも互いに楽しく過ごしてもらい、地域の皆さんの笑顔の輪を拡げ、健康づくりにも繋げていければと思います」と話していました。（佐藤）



■お問い合わせ先

竜山川「花見ライン」創生プロジェクト ウェブサイト：<http://samidare.jp/ryuzan/>



NPO法人未知

未知祭

平成30年10月27日（土）

NPO法人未知は、就労継続支援B型事業と地域活動支援センター事業を行い、精神的ハンディキャップを持つ人々が、作業所等を中心に展開される活動を通して、地域社会で自立した生活を送れるようになることを目指し活動しています。日ごろの活動では、農業実習や手芸、自主作品などの作成・販売を行っています。

この日、事業所に到着するとすでに多くの人々でにぎわっていました。事業所の外では、新鮮野菜で作った青南蛮みそ漬けや梅干しなどの加工食品が販売されていました。これらの加工食品は、山形市の二位田にある畑で栽培したものをメンバーが中心となって加工したものだそうです。そして、豚汁や揚げたこ焼き、フランクフルトも販売していました。

事業所の中をのぞいてみると、自主作品の販売と音楽ライブが開催されていました。販売コーナーでは、グループ未知、クリエイティブハウス未知のほか、ひなぎくアルファー城南町も出店していました。エコバッグや小物入れ、シュシュ、いちごの形のアクリルたわしなど生活やオシャレで使うことができるオリジナルな作品が並び、多種多様で鮮やかな工夫されたデザインが多く、訪れた方々もその繊細なものづくりに感動していました。音楽ライブでは、バンド演奏、DJ、ピアノなど盛りだくさんな内容で、中には作詞・作曲をし、弾き語りを披露していたメンバーがいて非常に印象的でした。ライブ会場は満席で、手拍子をしてリズムをとる人たちが盛り上がっていました。

スタッフの今野さんは、「未知祭などのイベントを通しての販売体験は、自分たちで作ったものが売れる喜びを実感してもらうこと、そして社会勉強を目的に活動している。また、地域の方々とのかかわり、近所の方々に『未知』の存在を知ってもらうためにも、未知祭をはじめとした様々な活動を積極的にしていきたい。」と話していました。仲間がいる喜び、仕事をする楽しさを一緒に探してみたい方は、見学や体験を随時行っているので、お気軽にお問い合わせください。（山形大学3年 取材ボランティア 高橋楓）

■お問い合わせ先 NPO法人未知 電話：023-633-9387

